観光社会資本の事例

テーマ 尾瀬からの水を湛え大自然の中に溶け込む奥只見ダム(銀山湖)

【施設の状況写真】







奥只見ダムは越後三山只見国定公園内に位置し、尾瀬沼を源流とする只見川の水を蓄え、昭和 37 年の完成から現在に至るまで国内最大の貯水容量を誇っています。春はブナの新緑を秋は紅葉を水面に映え、豊かな自然を求めて多くの観光客が訪れます。冬は積雪が5mを超える国内有数の豪雪地帯となります。

【施設の利用写真】



残雪が映える春から紅葉の秋まで多くの観光客が訪れます。ダムを見下ろす所に奥只見電力館があり、事前に申し込めばダム堤体内や発電所の見学も出来ます。



ダム下流地区には春スキーで有名な奥只見丸山スキー場、研修・スポーツ合宿などに利用される緑の学園、湿地を巡る自然散策路、ダム見学者用スロープカー等があり利用されています。

【観光資源としての利用状況】

奥只見湖の遊覧船は年間 10万人の観光客が利用し、「春の残雪とのコントラスト」「夏の涼」「秋の紅葉」と四季折々の自然を楽しんで頂いております。奥只見湖はイワナ釣りのメッカとしても有名で、夏には湖面でカヌーが楽しめます。ダム地点の宿泊設備(緑の学園)には、教室、体育館、グラウンドなどが整備されており、林間学校としても利用され、スキーシーズンはスキー客にも利用されています。またダム左岸にある奥只見電力館は奥只見ダム・発電所の歴史や仕組みを展示しており、多くの見学者が訪れています。周囲は登山、ハイキング、動植物観察などにも利用されています。

テーマ 尾瀬からの水を湛え大自然の中に溶け込む奥只見ダム(銀山湖)

【社会資本の基礎データ】

名称 奥只見湖(銀山湖)・奥只見ダム

所在地 左岸:新潟県魚沼市湯之谷芋川字大鳥地先

右岸:福島県南会津郡桧枝岐村字駒ケ岳地先

事業名 水力発電事業、遊覧船事業、緑の学園事業

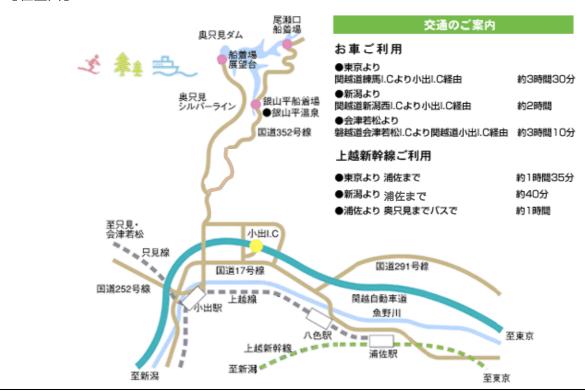
事業主体 電源開発株式会社 奥只見観光株式会社

事業期間 水力発電事業(昭和29年)、遊覧船事業(昭和37年)、緑の学園事業(昭和47年)

【社会資本の役割・効果】

奥只見ダム·奥只見湖(銀山湖)は、発電事業のため昭和 37 年に建設され、現在まで国内最大の貯水容量を誇ってきました。この巨大な貯水池は、国内有数の豪雪地帯の豊富な雪解け水を蓄え、下流域に年間安定して水資源を供給しています。ここではダムからの水を右岸にある奥只見発電所(地下発電所)で取水し発電しています。平成 15 年の増設工事完成以降は、一般水力では国内最大の 56 万 kW の発電が可能となりました。また、ダム建設のために作られた工事用道路は、昭和 44 年に新潟県に譲渡され、昭和 52 年からは一般県道「小出奥只見線」となりました。この道路は奥只見ダムや尾瀬へのアクセスとして「シルバーライン」の愛称で親しまれ、行楽の車などに利用(年間約 15 万台)されています。

【位置図】



【関連ホームページ】

奥只見観光株式会社 http://www.okutadami.co.jp/

魚沼市観光協会 http://www.city.uonuma.niigata.jp/kankou/

尾瀬保護財団http://www.oze-fnd.or.jp電源開発株式会社http://www.jpower.co.jp/